

■総合的な評価コメント等

種々努力されていることは認められるが、経営面で結果が出ていないのは残念。さらなる徹底的な努力の上で、どうしても財務改善が無理なら、市からの運営交付金の増額を求める必要も出てこよう。

28年度評価

第2期中期計画の最後の年度であるため、各分野において目標達成に向けたきめ細かい進展を図り、データサイエンス学部の新設と国際総合科学部の再編を次期中期計画に繋げる目標として検討を行った。

教育面では学部の総合力を発揮した領域横断型の教育を実施したこと、「地域志向科目」を全学必修科目にしたこと、医師・看護師の国家試験共100%近い合格率を得たこと、PEの成果が「文部科学大臣賞」などの受賞に繋がった等が特記される。

研究面では先端医科学研究センターが、文科省の先端研究基礎基盤事業に採択された。

附属2病院では前年度に続き厳しい決算となったが、地域の医療水準の向上に多大な貢献をした。

中期計画評価

教育の成果は単年度ごとの評価では大きな進展が見られないものの、6年を通して見るとその成果の大きさが明瞭に証明される。特にPEが定着し、その上にAPEも組み込まれ、先ずはグローバル人材育成の基盤が形成されたことは、大きな成果として評価できる。

領域横断型教育プログラム及び学部共通教養教育が実現したことは、YCUの総合力を適切に活かしたものである。国際化はなかなか進まないように見えたが、ここ数年海外フィールドワーク支援制度や協定校の増加で海外に出る学生も増え、国際化への環境が整備されつつあるが、受け入れ留学生の数を増やす更なる努力が必要である。

医理連携を目指した生命医科学研究科の新設も、医学部を持つYCUの特徴となった。「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択されたことにより地域志向の教育プログラムが推進したこと及びボランティア支援室の立ち上げ等は、大学の基本方針「地域貢献」に値する。

附属2病院の高度医療・先端的医療の推進も、市民の健康に関する地域貢献として評価する。

全体として中期計画期間中での改善が十分に認められる。

地域貢献と国際化という二本柱を教育研究、医療それぞれの分野で意識し、分野ごとに具体的に実施され、結果も出ており、大いに評価出来る。

一方で、上記が向上すればするほどリスク面、すなわちコンプライアンスを含めたガバナンスと財務統制のコントロールが浮き彫りになってきている。

今後も、大学なので教育研究、医療を中心に充実して然るべきだが、法人経営の部分も第3期中期計画ではウェイトを置き、改善を企図するべきと考える。